

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 13年6月

～4-6月期の外需寄与度は前期比0.2%程度のプラスに

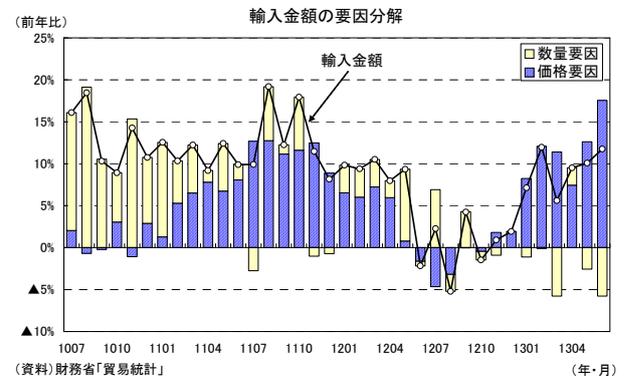
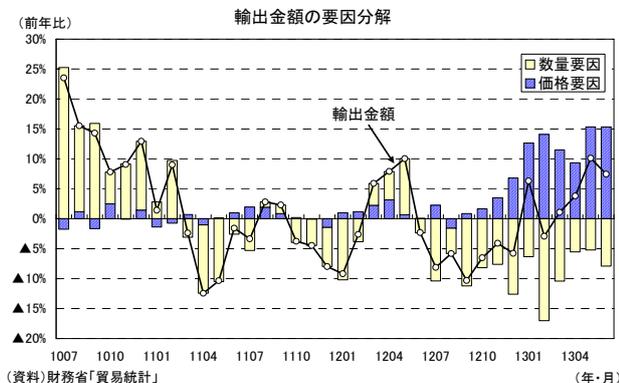
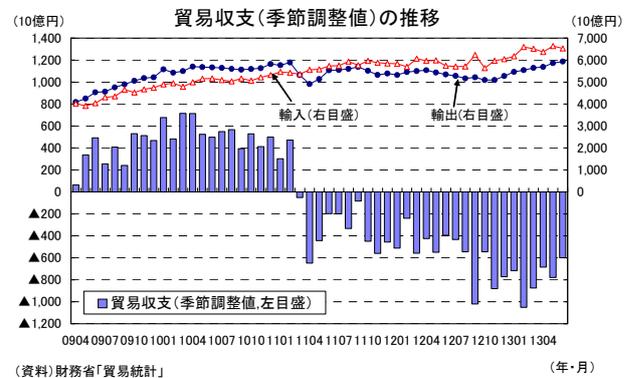
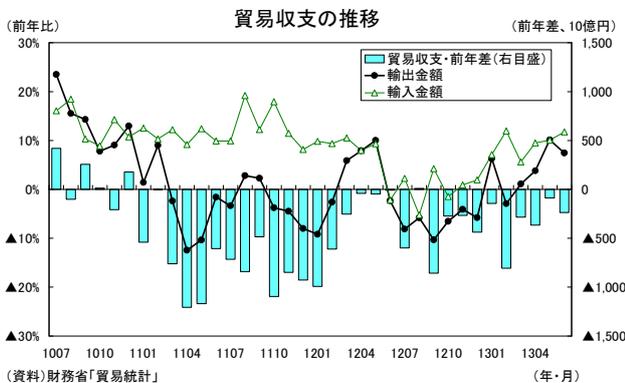
経済研究部 経済調査室長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易赤字(季節調整値)は縮小傾向

財務省が7月24日に公表した貿易統計によると、13年6月の貿易収支は▲1,808億円と12ヵ月連続の赤字となり、赤字幅は事前の市場予想(QUICK集計:▲1,550億円、当社予想は▲1,795億円)を若干上回った。輸出の伸びが5月の前年比10.1%から同7.4%へと低下する一方、円安、原油高による輸入価格の大幅上昇を主因として輸入が5月の前年比10.1%から同11.8%へと伸びを高めたため、前年に比した貿易収支の悪化幅は前月よりも拡大した。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲7.3%(5月:同▲4.8%)、輸出価格が前年比15.9%(5月:同15.7%)であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲5.3%(5月:同▲2.4%)、輸入価格が前年比18.0%(5月:同12.8%)であった。



季節調整済の貿易収支は▲5,987億円と28ヵ月連続の赤字となったが、5月の▲7,779億円から

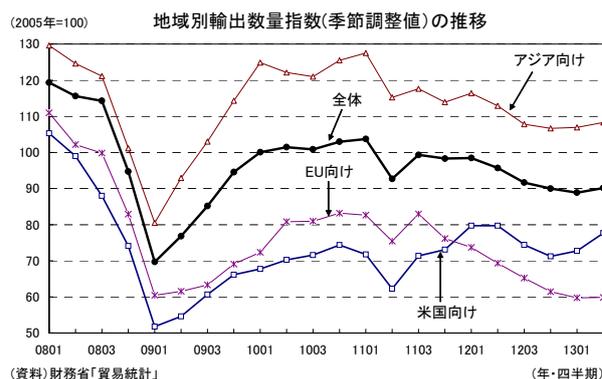
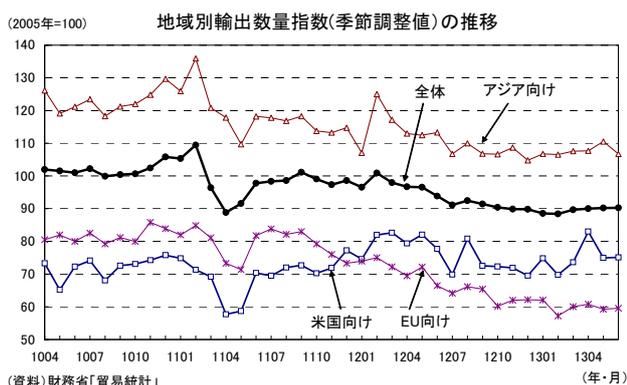
は赤字幅が縮小した。輸出が前月比 1.1%（5月：同 3.2%）と 7 ヶ月連続の増加となる一方、6月
は 5月に比べ円高が進んだこともあり、輸入が前月比▲1.7%（5月：同 4.3%）と 2 ヶ月ぶりの減
少となった。四半期ベースの貿易赤字は 13 年 1-3 月期の▲10.6 兆円（季節調整済・年率換算値）
から 4-6 月期は▲8.2 兆円へと縮小しており、円安効果を主因として貿易赤字の拡大傾向には歯止
めがかかりつつあると判断される。

2. 米国向けが輸出を牽引

6月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲3.4%（5月：同▲8.7%）、EU向けが
前年比▲10.5%（5月：同▲18.0%）、アジア向けが前年比▲5.9%（5月：同▲1.8%）となった。

4-6 月期の輸出数量指数を季節調整値(当研究所による試算値)で見ると、米国向けが前期比 6.8%
(1-3 月期：同 2.1%)、EU向けが前期比 0.2%（1-3 月期：同▲2.8%）、アジア向けが前期比 1.3%
(1-3 月期：同 0.2%)、全体では前期比 1.5%（1-3 月期：同▲1.3%）となった。

景気が堅調に推移する米国向けは前期から伸びを大きく高めたが、景気後退が続く EU向け、中国
を中心に景気が減速しているアジア向けは低い伸びにとどまった。特に、EU向けは直近のピークで
ある 2011 年 7-9 月期に比べると 3 割近く低い水準となっている。



3. 4-6 月期の外需寄与度は前期比 0.2%程度のプラスに

6月までの貿易統計と5月までの国際収支統計の結果を踏まえて、4-6 月期の実質 GDP ベースの
財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出が前期比 3%程度の増加、輸入が 1%台半ばの増加と
なることが見込まれる。この結果、4-6 月期の外需寄与度は前期比 0.2%（1-3 月期：同 0.4%）と
2 四半期連続のプラスとなることが予想される。

当研究所では鉱工業生産、家計調査、建築着工統計等の結果を受けて、7/31 の weekly エコノミ
ストレーターで 4-6 月期の実質 GDP 成長率の予測を公表する予定である。現時点では、外需が 2 四
半期連続で成長率の押し上げ要因となることに加え、国内需要が民間消費、公的固定資本形成を中
心に高い伸びとなることから、前期比年率 4%程度の高成長になると予想している。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報
提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。